

教会とは何か

私たちワシントン日本人キリスト教会は、本日、教会創立第 22 周年の記念主日を迎えた。今から 22 年前の 11 月第 1 主日に、大きな喜びと希望をもってこの教会は出発したが、光陰矢の如しといわれるように月日は実にあっという間に過ぎ去った感がある。教会の歴史については週報第 2 頁の『ワシントン日本人キリスト教会略史』を読んでいただきたいが、“HISTORY”はしばしば“HIS・STORY”と言われるように、この 22 年の教会の歴史は実に神の恵みの歴史であったということが出来る。

ところで私たちの教会はこれからどのように歩んでいくであろうか。私たちの教会が「神の教会」として成長していくためには、正しい教会観の確立が絶対に必要である。教会とは何か、教会は何のために存在するのか、教会の本質、その働き使命とは何か、教会に生きるとはどういうことか、これらについての正しい理解（正しい教会観）なしに教会の成長はありえない。

偉大な宗教改革者ジャン・カルヴァンはその名著『キリスト教綱要』の中で、真の教会の第 1 にして最も顕著なるしは神の御言葉への忠誠であると教えている。神の言葉が正しく説かれ、神の言葉が正しく聞かれ、そして神の言葉が正しく従われるところに神の教会が存在する、という事を真の意味で理解することが私達の教会が教会であるために絶対に必要なことである。

たとい会堂にあふれる会員、堂々たる建物、念入りな儀式、あるいは完備した組織や魅力的なプログラムがあるとしても、もし神の言葉が真理として説かれず、信じられていないとすれば、それは人間の集団ではあっても、イエス・キリストの教会ではない。或いはまた、たとい福音的な信仰をもって信じる者たちであるとしても、彼らが「さあ、集まりましょう、歌いましょう、祈りましょう、交わりましょう」というだけでは教会はできない。

神によって選ばれ、召され、イエス・キリストの血潮によって贖われ、神の御霊によって救い主キリストに一体とされた者たちが、神の言葉によってたえず教えられ、養われ、聖霊によって砕かれ、改革され、神への礼拝と讚美へと成長していく、そのような神のみ言葉による教育と訓練が正しく行われているところにイエス・キリストの教会があるのである。「神の言葉とキリスト」なしのキリスト者がありえないように、「神の言葉とキリスト」なしの「教会」というのもありえない。

主イエスとその一行がフィリポ・カイサリア地方に行ったとき、ペトロが「あなたこそ生ける神の子キリストです」（口語訳）と告白したとき、主イエスは、あなたは幸いである、あなたにこの真理を啓示したのはわたしの父である、わたしはこの真理の上にわたしの教会を建てよう、と言われた（マタイ 16：16～18）。この主の言葉を思い起こしたいと思う。

教会は、単なるクラブや愛好会のような、人の好みによって作られた団体ではない。それは「キリストのからだ」と呼ばれ、「イエスは神の子キリストなり」と告白し、そのキリストの血しおによって贖われ、そのキリストに一体とされた者の生命的な交わりのことである。このキリストに一体とされて、頭なるキリストの恵みを分かち合い、キリストの言葉すなわち福音によって養われ、共に神に仕えていく、そして愛の共同体を築き上げて行く。この礼拝と愛の共同体が「キリストのからだ」と呼ばれる教会のことである。